

若き附申

令和2年5月27日(水)

熊本大学教育学部
附属中学校
学校だより
第4号
文責〈高木〉

休校中の健康アンケート

五月七日に養護の河嶋先生がとられた休校中の健康アンケートの一部を紹介します。①や②のグラフから分かるように生徒の皆さんは、ほぼ規則正しい生活が送れているようです。来週からは、登校日も実施されます。生活のリ

ズムを整えるように、心がけてください。また、③のグラフからは約3分の2の皆さんがゲームやSNSの関する決まりを守っている事が分かります。電子機器等の使い方方がルーズにな

みましよう。
最後の④のグラフからは、皆さんの意識の高さが伺えます。学校再開後も引き続き手洗いや咳エチケットの実践をお願いします。

三年三組 城くん
からの投稿です。

『助け合い』
四月のことである。夜、食事を取りながらテレビを観ていると、あるニュースが目に入り、飛び込んで来た。「台湾から日本へ約二百万枚、マスクが寄贈された」というニュースだ。私は驚いた。それと同時に感動した。

今、世界では新型コロナウイルスが流行っている。しかし、そんな中でも、台湾はSARS流行時の経験をいかし、迅速に新型コロナウイルスの対策をしたことから、感染者を三百七十人程に抑えられている。

今回、マスクを寄贈に関して、蔡英文さんは、「世界が助けを必要としているとき、傍観しては行かない」と語った。もし、私がマスクを寄贈した、台湾の政治家だったら、日本にマスクを寄贈するだろうか？

四月は、確かに日本では感染者がどんどん増えており、マスクがなかなか買えず、どうしようかと悩んでいる人が多く出たときだった。私だったら、台湾で感染者が増えた時のために、マスクをとっておくかもしれない。そうでなくとも、二百万枚もマスクを寄贈しないだろう。

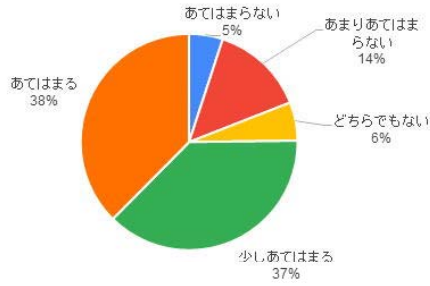
だから、二百万枚という数字に驚いた。その有り難さから感動した。日本ひとりだけでなく新型コロナウイルスと戦わなくては良いのだと心強くなった。

私達が日本を引っ張ってゆく時代になったとき・・・。そこに明るい世の中があるかは分からない。今のうちに暗い世の中であるかもしれない。たとえそうだとしても、台湾のように国が違えど互いに助け合い、明るい世の中を築いていきたい。

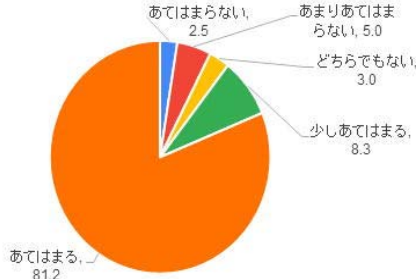
学校再開に向けて

昨日、ふと外を見ると、学年主任の先生方が作業をされていた。教室のエアコンのフィルターを掃除されていたのです。話を聞くと「例年、整環境課の皆さんが、フィルターの掃除をしてくれているのだけれども、今年はウイルスの危険性があるので生徒にさせるわけにはいかない」とおっしゃっていました。他の先生方も特別教室のフィルターを掃除されていました。また、保健室では、河嶋先生が各教室に配置される除菌・衛生グッズが着々と準備されていきました。来週からの登校日、少しでも皆さんの不安がなくなるように先生方もがんばっています。

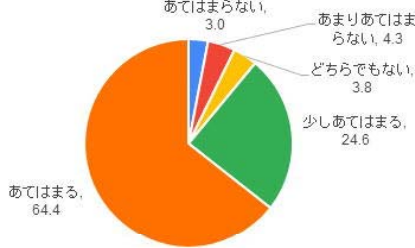
1 寝る時刻や起きる時刻が決まっている



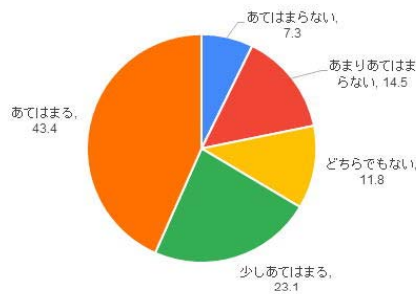
2 朝食毎日食べている



4 手洗いは、石鹸で指の間や手首まで丁寧に洗っている



3 ゲーム・SNS等については、家族と約束事やルールを作り、それを守っている。



※ 今回のグラフは養護の河嶋先生が作られたので、第3号のものよりさわやかな色合いになっています。以後気をつけたいと思います。